

原発あかん・橋下いらん・弾圧やめて!

5・14 内海愛子 講演会



「戦後日本の平和主義と朝鮮～ 置き去りにされた植民地支配」

第1部 13:00～14:30



ナオユキ

スタンダップ・コメディ

歌「老人は国会を目指す！」

鈴木隆史

特別報告
「インドネシアの戦時性暴力について」

福島報告、沖縄便り、…等

パギヤン

2017

5月14日 開場12:00
開演13:00
終演17:00

※第1部と第2部の途中に30分の休憩と喫茶軽食(実費)あり。
開場後1時間と講演会終了後30分間は、
会場とロビーにてご自由に交流なさってください。

平野区民ホール

大阪市平野区平野南1-2-7

☆地下鉄谷町線「平野駅」5番出口、東800m。
☆市バス平野公園前(平野区民ホール前)下車すぐ。
☆「区民センター」ではありません。お間違いないように!
※会館への問い合わせはご遠慮ください。



第2部 15:00～16:30

講演 内海愛子さん(惠泉女学園大学名誉教授)

フクシマと結ぶ 音の力いのちの言葉 (Vol.11)

■ 入場料は徴収しません。事前に「参加協力券¥1,000」をお買い求め下さい。(申込方法は裏面に。)

■ 主催・問い合わせ 実行委員会/コラボ玉造 [TAMAZO] 気付け
〒543-0013 大阪市天王寺区玉造本町 8-18 酒井ビル I 203号室
T&F 06-6763-0211 / メール tamazo@fanto.org / 携帯090-8146-1929

■ 後援 新聞「うずみ火」



「朝鮮問題」は、日本の民主主義を炙り出す炎である。

老人よ、うち捨てられた者たちよ！

国会を目指せ、政府を倒すために！

原発と米軍基地と「歴史修正主義」は三位一体である。

「3・11フクシマ」東日本大震災と原発事故から6年が経過した今、この国は戦争への道をはたかりに走っている。安倍ファシスト政権による「特定秘密保護法」制定、「集団的自衛権」容認、そして「安保関連法（平和安全法制整備法、国際平和支援法）」の強行採決、さらに「共謀罪」成立の企みは、戦後数十年に亘って日本国憲法の「主権在民・人権尊重・平和主義」の原則を蹂躪しようと画策してきたこの国のファシストどものあからさまな宣戦布告と言っても過言ではない。沖縄の反基地闘争に対する露骨な弾圧、東北被災者の切り捨て、放射能被害の隠蔽、ヘイトクライムの蔓延、「平和の少女像」撤去策動…等々、ファシストどもは日々強権を振りかざしながら、我々の生活を踏みにじり、一部資本家と富裕層の利益のみを守ろうとしている。然るに、残念ながら闘う人民の側の力量は、全く不十分である。「共産・社民・自由・民進」の野党共闘なるものは、飽くまで選挙戦術の域を出ないのであって、職場・生産点や流通現場、地域や様々なコミュニティでの戦線と闘争を強化するものでは決してあり得ない。

何故、我々はこれほどまでに「弱体化」したのか？ このまま戦争政策に翻弄され、座して死を待つしかないのか？ ちゃう!! 絶対にそうではないはずだ! アンパンマンも歌っている。「何の為に生まれて 何をして生きるのか… 解らないまま終わる そんなのは嫌だ!… そうだ! 嬉しいんだ生きる喜び たとえどんな敵が相手でも」。ファシストどもが我々に襲いかかってくるのであれば、体面や組織原則などに拘泥せず、我々も、恥も外聞もかなぐり捨てて奴らに反撃すべき時だ。

その「反撃」の準備のため、我々は諸君に「学習と理論武装」を呼び掛けるものである。戦後民主主義の危機が叫ばれて久しいが、そもそも「与えられた民主主義」ではないか! この国に、民衆の血と死で贖われた民主主

義の歴史など存在はしない。「国民」自らが勝ち取ることもなかった「戦後の平和と民主主義」は、実は、植民地支配の忘却を前提として成立したのである。言い換えるなら、侵略の歴史を「戦後の価値」のなかで意図的に不可視化させ、あるいは「忘れ去る」ことで、「唯一の被爆国」の一国平和主義に甘んじてきたのだ。いま、米軍基地や原発事故をめぐって、あるいは、「アベ政治を許さない」諸運動の横断的・戦闘的な統一戦線が構築できないでいるのは、戦後日本の民主勢力が抱え込んできた「平和主義」の決定的弱点故に受けている罰「ばち」なのだ、と言いたい。

日本軍「慰安婦問題」は、韓国において朴槿恵政権打倒の主要テーマの一つとなっている。一方、日本においてはどうか。ネトウヨどもの格好の攻撃材料、ファシスト安倍の「舌先三寸」の道具に貶められているではないか! ファシストどもが振りかざす「歴史修正主義」と「新自由主義」を粉碎せよ! 以て、反基地も脱原発も共に我が手に奪取せよ! 「5・14講演会」への、諸君の決起と結集を呼び掛ける。

実行委員会一同

内海愛子さんプロフィール
早稲田大学卒業。日本朝鮮研究所所員、インドネシア・パジャジャラン大学講師。帰国後、アジア太平洋資料センター(PARC)で多国籍企業研究「エビ研究会」(村井吉敏・鶴見良行ら)に参加。80年代、インドネシア、フィリピンなどのエビ養殖場の現場を歩く。そこはまた日本軍が占領していた地域でもある。日本軍がアジアで何をしていたのか、住民の側からの占領の話を聞く。戦後、東南アジアではオーストラリアやオランダやイギリスが戦争裁判を行っており、朝鮮人軍属が戦犯として裁かれていた。148人もの朝鮮人戦犯がいる。23人が絞首刑・銃殺刑になっている。

恵泉女学園大学名誉教授。主な著書に「スガモ・ブリズン--戦犯たちの平和運動」(吉川弘文館)、「戦後補償から考える日本とアジア」(山川出版社)「日本軍の捕虜政策」(青木書店)、「キムはなぜ裁かれたのか--朝鮮人BC級戦犯の軌跡」(朝日新聞出版)、「戦後責任 アジアのまなざしに於て」(共著 岩波書店)、「朝鮮人BC級戦犯の記録」(岩波現代文庫)など。

「5・14」実行委員会では、賛同団体、賛同人(個人)を広く募っています。
趣旨に賛同される方は下記①と同じ方法でご連絡下さい。

- ① 下記のいずれかの方法で、住所・氏名・電話番号と、必ず枚数をお知らせ下さい。
[振り込み用紙] 同封でお送りします。
- 電話 090-8146-1929 (au)
- Fax 06-6763-0211
- メール tamazo@fanto.org

- ② 郵便振替口座に「5・14参加協力券 ○枚希望」とお書きになってご送金下さい。一枚につき、¥1,000です。入金が確認され次第、ご指定の住所・氏名まで郵送いたします。
- 【口座番号】 00940-5-312873
- 【加入者名】 企画・出版 黄土(ファント)

※事務処理の関係上、お振り込みの締切は5月8日(月)とさせていただきます。それ以降は、電話・ファックス・メールでお申し込み下さい。

「コラボ玉造」まで 葉書か封書

お申し込み方法
参加協力券